

DOCUMENT PREPARING DEVICE AND KEY FUNCTION SETTING METHOD

Publication number: JP6060078 (A)

Publication date: 1994-03-04

Inventor(s): TAKEMURA KOJI; HATAYAMA YOSHINORI; NAGASAWA KIMIO; NONAKA YUICHIRO; TANAKA TSUTOMU +

Applicant(s): SANYO ELECTRIC CO +

Classification:

- **international:** H03M11/04; G06F3/023; G06F17/21; H03M11/04; G06F3/023; G06F17/21; (IPC1-7): G06F15/20; G06F3/023; H03M11/04

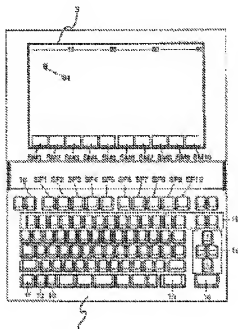
- **European:**

Application number: JP19920211515 19920807

Priority number(s): JP19920211515 19920807

Abstract of JP 6060078 (A)

PURPOSE:To make it unnecessary to execute a setting operation to a soft key, and to simplify an operation by automatically setting a function selected on a help menu screen by a user at a function setting key or the like, and automatically registering the function. **CONSTITUTION:**Editing functions related with editing operations selected on the help menu screen are automatically set at function setting keys SF1-10. When a help key 1h is pressed and inputted, the help menu screen is displayed. Then, a guidance message display screen is displayed. At that time, a key input is operated. When the inputted key is an execution key 1e, the editing functions related with the operations selected on the help menu screen are registered in the soft keys SF1-10. That is, the editing functions are newly set at function display areas. Thus, a mouse is click-operated to the new function display areas, so that the execution of the editing functions can be attained.



Data supplied from the **espacenet** database — Worldwide

特開平6-60078

(43)公開日 平成 6 年(1994) 3 月 4 日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 15/20	5 8 6 E	9288-5L		
3/023				
H 0 3 M 11/04				
	7165-5B		G 0 6 F 3/ 023	3 1 0 H

審査請求 未請求 請求項の数17(全 12 頁)

(21)出願番号	特願平4-211515	(71)出願人	000001889 三洋電機株式会社 大阪府守口市京阪本通 2 丁目 5 番 5 号
(22)出願日	平成 4 年(1992) 8 月 7 日	(72)発明者	武村 浩司 大阪府守口市京阪本通 2 丁目18番地 三洋電機株式会社内
		(72)発明者	畑山 佳紀 大阪府守口市京阪本通 2 丁目18番地 三洋電機株式会社内
		(72)発明者	長沢 喜美男 大阪府守口市京阪本通 2 丁目18番地 三洋電機株式会社内
		(74)代理人	弁理士 西野 卓嗣

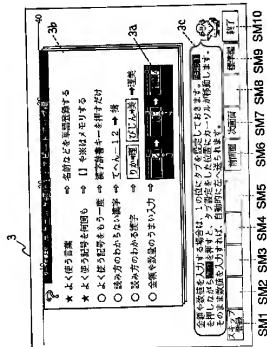
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 文書作成装置及びキー機能設定方法

(57)【要約】

【目的】 使用者が、キーの機能を設定可能で、このキーを機能実行キーとするものがある。しかし、未熟者にとっては、この設定操作ですら、厄介である。

【構成】 本発明では、使用者が、ヘルプ機能を実行して、選択した操作に関連した編集機能を、自動的に機能設定キー(SF1～SF10)に設定する。そして、この機能を実行する場合は、この機能設定キー(SF1～SF10)を操作することにより実行する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 センタリング、サーチ、メモリ、文字修飾、禁則処理、文書呼出、入力モード設定、行書式、罫線、書式変更、レイアウト表示等の編集機能のうち少なくとも1つを備えるとともに、

前記編集機能の実行を開始するために設けられ、設定される編集機能が使用者の操作によりなされる機能設定キー(SF1～SF10)とを備える文書作成装置において、ヘルプメニュー画面(3b)で選択した編集操作に関する前記編集機能を、前記機能設定キー(SF1～SF10)に自動設定することを特徴とする文書作成装置。

【請求項2】 編集機能を有する文書作成装置において、

ヘルプ機能を備え、このヘルプ機能で説明を要求された前記編集機能を、機能設定キー(S1～S10)に自動設定することを特徴とする文書作成装置。

【請求項3】 既に設定された編集機能と同一機能が、ヘルプ機能で説明を要求された場合は、前記自動設定を行わない請求項2の文書作成装置。

【請求項4】 既に設定された編集機能と同一機能が、ヘルプ機能で説明を要求された場合は、すでに設定されている前記機能設定キー(SF1～SF10)に今回ヘルプ機能で説明を要求された前記同一機能を設定することを特徴とする請求項2の文書作成装置。

【請求項5】 前記設定時に、前記機能設定キー(SF1～SF10)の機能名表示部(SM1～SM10)を点滅表示せしめる請求項2の文書作成装置。

【請求項6】 全ての機能設定キーの設定後に、新たな編集機能がヘルプ機能で説明を要求された場合は、使用頻度の少ない編集機能に対応した機能設定キー(SF1～SF10)にこの新たな編集機能を設定する請求項2の文書作成装置。

【請求項7】 機能設定キー(SF1～SF10)に所望の編集機能を設定するキー機能設定方法において、ヘルプ機能で説明を要求された編集機能を前記機能設定キー(SF1～SF10)に自動的に設定することを特徴とするキー機能設定方法。

【請求項8】 センタリング、サーチ、メモリ、文字修飾、禁則処理、文書呼出、入力モード設定、行書式、罫線、書式変更、レイアウト表示等の編集機能のうち少なくとも1つを備えるとともに、

前記機能の実行を開始するために設けられた2つ以上のキー(1c, 1d) (1b)と、前記機能の実行を開始するために設けられ、使用者によりその機能が設定される機能設定キー(SF1～SF10)とを備える文書作成装置において、

ヘルプメニュー画面(3b)で選択した編集操作に関する前記編集機能を、前記機能設定キー(SF1～SF10)に設定することを特徴とする文書作成装置。

【請求項9】 前記機能設定キー(SF1～SF10)の機能名

の画面表示時に、この機能設定キー(SF1～SF10)を機能実行キーとして動作させ、

前記機能名の画面無表示時に、この機能設定キー(SF1～SF10)を機能実行キーとして動作させないとともに、前記機能名の画面無表示時にも、前記自動設定を行う請求項2の文書作成装置。

【請求項10】 前記機能設定キー(SF1～SF10)の前記機能名の画面表示時に、この機能設定キー(SF1～SF10)を機能実行キーとして動作させ、

前記機能名の画面無表示時に、この機能設定キー(SF1～SF10)を機能実行キーとして動作させないとともに、前記機能名の画面無表示時に、前記自動設定を行わない請求項2の文書作成装置。

【請求項11】 前記編集操作に関連する編集機能が、複数存在する場合は、この複数の編集機能と、近接した前記機能設定キー(SF1～SF10)に自動設定する請求項9の文書作成装置。

【請求項12】 前記機能設定キー(SF1～SF10)に自動的に設定された機能を固定する手段(1d)を備える請求項2の文書作成装置。

【請求項13】 前記機能設定キー(SF1～SF10)に自動的に設定された機能のデータを別体の記憶手段に書き込む書込手段と、この記憶手段から読み出された前記データにより、前記機能設定キー(SF1～SF10)の機能を設定する請求項2の文書作成装置。

【請求項14】 前記記憶手段は、フロッピーディスクである請求項13の文書作成装置。

【請求項15】 表示画面に機能表示領域を有し、この機能表示領域内に、マウスによりカーソル表示を移動せしめて、前記マウスをクリック操作することにより、編集機能の実行を行う文書作成装置において、ヘルプ機能により説明を受けた編集機能を、前記機能設定領域に自動的に設定し、この機能設定領域に前記カーソル表示を移動せしめて、前記マウスをクリック操作することにより、この編集機能の実行を行う文書作成装置。

【請求項16】 機能設定キー(SF1～SF10)を有する文書作成装置において、ヘルプ機能実行指示表示領域を有し、この表示領域内に、マウスによりカーソル表示を移動せしめて、前記マウスをクリック操作することにより、ヘルプ機能を実行し、このヘルプ機能で指定した編集機能を前記機能設定キー(SF1～SF10)に自動的に設定することを特徴とする文書作成装置。

【請求項17】 表示画面に機能表示領域を有し、この機能表示領域内に、マウスによりカーソル表示を移動せしめて、前記マウスをクリック操作することにより、編集機能の実行を行う文書作成装置において、

前記実行された編集機能を機能設定キー(SF1～SF10)に自動的に設定することを特徴とする文書作成装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、文書作成装置に関する。特に、日本語ワードプロセッサに関する。

【0002】

【従来の技術】ワードプロセッサ及びワードプロセッサソフトが実行されているパーソナルコンピュータは、多くの編集機能を有している。この編集機能としては、センタリング、サチチ、メモリ、文字修飾、禁則処理、文書呼出、入力モード設定、行書式、罫線、書式変更、レイアウト表示、置換、略語登録、クリア、表計算等がある。このように、文書作成装置は、表示 入力 記憶関連の多くの編集機能を有している。

【0003】そして、これらの、編集機能の一つ一つに対応して、キーを設けると、多くのキーを必要とする。このキー数の削減のため、一般に、通常の文字キーを、機能実行用ソフトキーと共に鍵打することにより、機能実行のためのキーとして、兼用している。しかし、このように文字キーを機能実行キーと兼用すると、操作が厄介である。

【0004】このため、機能実行キーとして動作するキーを数個設け、どのような、機能実行キーとして動作させるかを、使用者が任意に設定できるものがある。以下、このキーを、機能設定キーと称す。尚、このように、使用者が、所望の機能を、任意に設定できるものは、特開昭61-75417号(G06F3/023)等で開示されている。

【0005】通常、使用者は、使用頻度が高い機能を、この機能設定キーに設定して、利便性を高めている。以下、文字キーを機能実行用ソフトキーと兼用して、機能を実行することを、通常実行と称す。また、機能設定キーにより、機能を実行することを、スキップ実行と称す。このスキップ実行では、通常実行に比べて、途中の操作、表示等が簡略化される。尚、このスキップ実行の全ての機能に於て、操作等が簡略化されるものではないが、通常実行と区別するために、このように呼称する。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかし、未熟者にとつては、機能設定キー等への機能の設定ですら厄介である。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明は、ヘルプメニュー画面(3b)で選択した編集機能を、自動的に機能設定キー(SF1-SF10)等に設定する。

【0008】

【作用】本発明では、使用者が、ヘルプメニュー画面(3b)で選択した機能を、自動的に機能設定キー(SF1-SF10)等に設定する。つまり、ヘルプ要求をした編集操作に関連する編集機能を、自動的に機能設定キー(SF1-SF10)等に設定する。

【0009】

【実施例】図1〜図13を参照しつつ、本発明をワープロ

に採用した実施例を説明する。この実施例では、周知の桁揃タブ機能等を、周知の機能設定キーに、登録する本願特有の登録動作を説明している。動作の説明の前に、まず、各国の説明をする。

【0010】図1は、このワープロの回路図である。同図において、(1)は、文書作成やメニュー選択に用いられる入力部(キーボード)である。(2)は、CPUである。このCPU(2)は、内部に設けられたメモリ(2-a)に格納されたプログラムに従って動作するものである。尚、メモリ(2-a)には後述する図12、13に示すフローチャートに従ったプログラムが格納されている。

【0011】(3)は、CRTまたはLCDよりなる表示出力部である。(4)は、ビデオRAM(VRAM)である。このVRAM(4)は、表示出力部(3)の1画面のパターン展開情報を記憶する。図2は、外観を示す図である。なお、図1と同一部分には同一符号を付した。(1)は、キーボードである。

【0012】(1a)は、カーソルを上下左右の4方向に移動させるカーソル移動キーである。このカーソル移動キー群(1a)は、上 下 左 右カーソル移動キーの4つからなる。(1b)は、文字キーの一部である。この文字キー(1b)は、通常は、1、2、3、4、5、6、7、8、9、0、-、_、~、/、\、等、の通常の文字キーとして、動作する。

【0013】そして、これらの文字キー(1b)の一個一個は、キー(1c)の鍵打の後に、押下された場合は、表示モード設定キー、行書式設定キー、文書呼出キー、センタリングキー、右寄せ処理実行キー、サチチキー、文字修飾キー、等として、動作する。尚、以下、このキー(1c)を、機能実行用第1シフトキーと称す。

【0014】また、この文字キー(1b)の一個一個は、キー(1d)の鍵打の後に、押下された場合は、入力モード設定キー、拡大印刷設定キー、表計算実行キー、レイアウト表示キー、禁則処理実行キー、等として、動作する。尚、以下、このキー(1d)を、機能実行用第2シフトキーと称す。このように、キー数の削減のため、通常の文字用のキー(1b)を、機能実行用第1、2シフトキー(1c、1d)との組み合わせにより、表示 入力 記憶等の編集機能を実行させるキーとして用いている。

【0015】(1e)は、実行キーである。この実行キー(1e)は、各種機能を実行する場合に、鍵打されることにより、その機能の決定や、範囲指定の決定に用いられる。(1f)は、取消キーである。取消キー(1f)は、処理の中断を行う。(SF1、SF2、SF10)は、ソフトキーである。このソフトキー(SF1、SF2、SF10)は、機能実行キーとして働く。そして、このキー自身の押下のみで、機能を実行する。この実施例のソフトキー(SF1、SF2、SF10)に設定されている機能は、あらかじめ複数設定されており、その機能はモードによって異なる。よって、このソフト

キー(SF1,SF2 SF10)の機能を表示するソフトメニュー部(SM1,SM2 SM10)が存在する。

【0016】(1g)は、表示切替キーである。この表示切替キー(1g)は、ソフトメニュー部(SM1,SM2 SM10)を表示させるキーである。画面下部にソフトメニュー部が表示されていない時に、この表示切替キー(1g)を鍵打すると、スキップ実行のための機能が書き込まれたソフトメニュー部(SM1,SM2 SM10)が表示される。さらに、鍵打すると、このソフトメニュー部(SM1,SM2 SM10)には、ソフトキー(SF1,SF2 SF10)の他の機能が表示される。さらに、鍵打を続けると、元のソフトメニュー部の無表示状態に戻る。

【0017】(1h)は、ヘルプキーである。このキー(1h)は、インストラクションキーとも呼ばれこのワープロの機能の説明文を表示する。(SM1,SM2 SM10)は、前述の如く、ソフトキー(SF1,SF2 SF10)の機能名を表示するソフトメニュー部である。そして、ソフトキー(SF1,SF2 SF10)は、編集画面のソフトメニュー部(SM1,SM2 SM10)に表示された機能を実行するためのキーである。この10個のソフトキー(SF1,SF2 SF10)と、10個のソフトメニュー部(SM1,SM2 SM10)は、1対1の対応をしている。

【0018】(3)は、表示出力部である。(3a)は、カーソルである。図3～図11は、このワープロ操作中の表示画面を表している。図3は、編集中の画面である。図4は、図3の状態で操作者が、ヘルプキー(1h)を鍵打した後の図である。

【0019】(3b)は、ヘルプメニュー画面である。(3c)は、ガイダンスメッセージ表示画面である。(3a)は、カーソルであり、カーソル移動キーにより上下する。この図4では、始めは、?の位置に存在する。そして、使用者が必要とする操作を説明する項目に移動させる。

【0020】(SM1,SM2)は、前述の如く、ソフトメニュー部である。図5は、図4の後に、操作者がカーソル移動キー(1b)により、カーソル(3a)を下方に移動した時の図である。この時、ガイダンスメッセージ表示画面(3c)は、このカーソルが位置する項目に対応した説明文を表示している。

【0021】図6は、図5の後に、操作者が実行キー(1e)を鍵打した後の図である。この実行キー(1e)の鍵打により、ワープロは、操作者がこの最後にカーソルが位置した項目の操作を希望しているものと判定する。そして、この図6の如く、ソフトメニュー部(SM1,SM2)に、この操作に関連した編集機能であるタブ設定、桁揃えタブを表示しており、ソフトキー(SF1,SF2)は、それぞれタブ設定、キー、桁揃えタブキーとして動作する。

【0022】尚、この自動設定時、ソフトメニュー部(SM1,SM2)の点滅表示が為され、使用者に、ソフトキー(SF1,SF2)に機能設定がなされたことが、報知される。図7～11は、この設定されたタブ設定と、桁揃えタブ機能

を使用して、金額や文字のうまい入力操作を行う図である。図7は、図6の後に、カーソル移動キー(1a)により数字を入力したい位置にカーソルを移動した図である。

【0023】図8は、図7の状態で、ソフトキー(SF1)を鍵打した後の図である。つまり、画面上では変化はないが、このカーソル位置がタブ位置として設定されている。図9は、図8の状態で、ソフトキー(SF2)を鍵打した後の図である。つまり、カーソルは、次のタブ位置に移動する。図10は、図9の状態で、文字キー中の数字キーの1,2,3を入力した後の図である。従来から知られるように、桁揃えタブなどの、一の位を固定として、数字の入力が行われる。

【0024】図11は、次のタブ位置で、数字キーの1,0,2,0を入力した後の図である。まず、このワープロでの動作を、桁揃えタブの編集操作を、図1～図11を参照しつつ、説明する。尚、図3～図11を中心に説明する。尚、キー操作説明時のキーの符号は、図2に対応する。図3の画面において、数字を入力するときに、桁揃えタブ機能を使用して、数字の入力を行うことが得策であり、熟練者は容易にこの操作を実施する。

【0025】このような、桁揃えタブについて、はっきりと認識していない未熟者は、ヘルプキー(1h)を押下する。これにより、図4の如く、ヘルプメニュー画面(3b)が表示される。使用者は、ここで、手引きをしてもらいたい操作項目にカーソル(3a)に移動させる。このカーソルが位置する項目に関連した説明文が、ガイダンスメッセージ表示画面(3c)に表示される。

【0026】使用者は、このヘルプメニュー画面(3b)の○金額や文字のうまい入力の項目位置にカーソル(3a)を移動させる。この移動後には、図5の如く、ガイダンスメッセージ表示画面(3c)には、この項目に対応した説明文が表示される。この後に、操作者が、実行キー(1e)を鍵打すると図6の如く、通常の編集モードに復帰する。しかし、このとき、○金額や文字のうまい入力操作のために、利用される機能であるタブ設定と、桁揃えタブが、ソフトキー(SF1,SF2)にそれぞれ自動設定され、ソフトメニュー(SM1,SM2)には、それぞれタブ設定と、桁揃えタブが表示される。尚、この設定時の最初の数秒間は、このソフトメニュー(SM1,SM2)が点滅表示され、使用者に自動設定を報知する。

【0027】図7の如く、操作者は、入力したい位置にカーソル(3a)を移動する。ここで、ソフトキー(SF1)の鍵打により、この位置をタブ位置として、このソフトキー(SF1)の鍵打後の画面は、図8の如く、図7と同じである。そして、桁揃えタブキーとして動作するソフトキー(SF2)を押せば、図9の如く、カーソル位置が、次のタブ設定位置に移動する。ここで、例えば数字キーの1,5,2,0,3を入力すれば、図10の如くなる。この図10の如く、数字の1の桁は不変である。

【0028】そして、再び、ソフトキー(SF2)を押し

て、カーソル位置を次のタブ設定位置に移動させて、数字キーの1, 0, 2, 0を入力すれば、図11の如くなる。このように、ソフトキー(SF2)による 桁揃タブ機能により、桁が揃えられた数字列を入力できる。図12~図13は、このワープロのプログラムを示している。

【0029】図12は、本願に関するプログラムの主要部分である。図13は、この図12のプログラムのステップ(S7)のサブルーチンを示している。ワープロにおいて、ヘルプキー(1h)が鍵打入力されると、図12のステップ(S1)より、ステップ2(S2)に移移し、図4の如く、ヘルプメニュー画面(3b)が表示される。

【0030】そして、ステップ3(S3)により、図4のごとく、ガイダンスメッセージ表示画面(3c)が表示される。ステップ4(S4)において、キー入力がない。この入力されたキーが、ステップ5(S5)で判定される。カーソル移動キーであれば、ステップ6(S6)でカーソル位置を移動して、ステップ3(S3)で対応するガイダンスメッセージ(3c)を再表示する。これにより、表示画面は、図5の如くなる。

【0031】ステップ5(S5)での判定が、取消キー(1f)であれば、終了する。また、実行キー(1e)であれば、ステップ7(S7)に移行する。ステップ7(S7)では、このヘルプメニュー画面(3b)で選ばれた操作に関連する編集機能をソフトキー(SF1~SF10)に登録する。これにより、自動設定を終了する。

【0032】図13に、図12のステップ7(S7)でのソフトキー登録処理の説明を示す。図13のステップ11(S11)では、既登録ソフトメニュー中の、同一機能の存在を判定する。存在する場合には、登録処理は行わない。このステップ11(S11)で、既登録ソフトメニュー中に、存在しないと判定した場合には、ステップ12(S12)により、未登録のソフトメニューを画面左上隅に検索していく。

【0033】その結果、未登録のソフトメニュー部(SM1, SM2)が存在する場合は、ステップ14(S14)において、その位置にこの編集機能を登録する。しかし、全てのソフトキーの登録終了時は、ステップ12(S12)において、未登録メニューが存在しないと判定される。この場合はステップ13(S13)で、すべてのソフトメニューの使用頻度などがチェックされ、使用頻度の少ないメニュー位置が求められる。

【0034】ここで求められたメニュー位置に対し、ステップ14(S14)で、機能の登録処理が行われる。尚、本実施例では、切替キー(1g)により、ソフトメニュー部を無表示時とした場合の動作を説明しなかった。本願は別に、このソフトメニュー部の無表示時に機能の自動設定動作を行なうようにして、使用者の混乱を招かないようにしてもよい。また、本願は、このソフトメニュー部の無表示時にも、機能の自動設定動作を行って、設定動作を省略するようにしてもよい。

【0035】また、上記実施例では、ソフトキー(SF1

SF10)全てが、自動設定されているが、任意の数のキーを従来同様、マニュアル設定とし、残りを自動設定とするようにしてもよい。このマニュアル設定されたソフトキーは、当然、自動設定による、機能の設定変更からは除外される。このように、ソフトキーの機能がかわらないことを、以下、機能の固定という。

【0036】このようにソフトキー(SF1~SF10)の機能を固定する場合は、上記の如く、最初からマニュアル設定してもよい。また、自動設定により、ソフトキー(SF1~SF10)の機能を自動設定した後に、機能実行用第2シフトキー(1d)を押下した後に、機能を固定したいソフトキーを押下することにより、このソフトキーの機能が固定されるようにしてもよい。

【0037】また、このように、機能が固定されたソフトキーを、使用者に報知するように、この機能が固定されたソフトキーのソフトメニュー部の枠線を太く表示したり、ソフトメニュー部内を網掛け表示するようにしてもよい。また、上記実施例では、一つの操作に関連する編集機能が2つ存在したが、このような場合に、この2つの編集機能をソフトキーに登録する場合は、この2つを並べて(近接して)登録すれば、操作がしやすい。このように、一度に複数の編集機能を登録する場合は、これをひとつの集団として処理する。

【0038】また、上記実施例では、ヘルプメニュー画面中の項目を、カーソル移動により選択したが、本願のこのヘルプを求める操作を選択するの、別にこのカーソル移動に限られる訳ではない。例えば、説明を受けたい機能名(操作名)を入力することにより、その操作説明が表示されるとともに、編集モード復帰時に自動設定されるワープロでもよい。

【0039】また、このような、ソフトキーの設定データ、文書データのFD(フロッピーディスク)格納時に自動的に同時に格納するようにしてもよい。このようにすれば、文書データのFDからの読み出し時に、自動的にソフトキーの設定が成される。なお、このFDのソフトキーの設定データの格納領域は、一つの文書に対応して1個設けてもよいし、またFDに対応して1個設けてもよい。前者の文書に対応して設けるのが理想であるが、通常、使用者はFDを分野別に作成して、使用するのの後者のFDに1個でもあまり問題は、生じない。

【0040】つまり、機能設定キー(SF1~SF10)に自動的に設定された機能のデータを別体のFDに書き込む書込手段と、このFDから読み出されたこのデータにより、機能設定キー(SF1~SF10)の機能を設定してもよい。また、実施例では、キーを鍵打することにより入力するキーボード入力のワープロを例に挙げたが、本願はマウスにより入力するタイプにも応用可能である。つまり、画面にメニューと呼ばれる機能名が表示された機能表示領域を有し、この機能表示領域内に、マウスによりカーソル表示を移動せしめて、実行したい機能名上でマ

ウスのボタンをクリック操作することにより、機能実行を行うタイプにも応用可能である。

【0041】つまり、ヘルプを含むメニューより、このヘルプを実行して、このヘルプで手助けをして欲しい編集機能(または操作)を選択し、この編集機能を機能表示領域に新たに設定する。これにより、この新たな機能表示領域を、マウスをクリック操作することにより、この編集機能の実行を行える。尚、この機能が自動設定される機能表示領域を、機能設定領域と称す。

【0042】尚、この自動設定される機能設定領域は、前記メニューとは別領域に表示してもよいし、この別領域は機能毎に1領域を設けてもよいし、この領域表示はモード変更に応じて常時表示されるようにしてもよい。また、本願は、マウスによる入力及び、キーボードによる入力の両方が可能なものでもよい。つまり、マウスの操作によりヘルプ機能を実行し、このヘルプで選択した編集機能を機能設定キーに自動設定してもよい。また、キー操作によりヘルプ機能を実行し、このヘルプで選択した編集機能を機能設定領域に設定してマウスで実行指示してもよい。

【0043】また、実施例では、図3の如く、いずれのソフトキーも登録されていない状態でも、ソフトメニュー部を表示している。しかし、使用者が誤解しないように、一個のソフトキーも登録されていない状態では、ソフトメニュー部を表示しないようにしてもよい。また、このように、設定した場合は、初めて機能を実行した場合は、自動的に、自動設定されたソフトメニュー部の表示モードとなるようにしてもよい。

【0044】また、実施例では、編集機能は、機能実行用ソフトキーと共に、文字キーを鍵打って実行の開始を行ったが、本願は一つのキーだけで実行開始する機能をソフトキーに登録したものも含む。要は、ヘルプ機能を使って、ソフトキー等の登録を行うことが特徴である。また、実施例では、複数の編集機能からなる操作を、ヘルプ機能で選択した例を述べたが、これは、別に1つの編集機能からなる操作を、ヘルプ機能で選択してもよい。尚、この場合は、選択した操作と、この操作に関連する編集機能とは同一となる。

【0045】

【発明の効果】上記の如く、本発明では、機能の登録が自動的に行われるので、ソフトキー(SF1~SF10)に対して、設定操作を行わなくても良く、操作の簡素化が図れる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の1実施例の概略ブロック図である。
【図2】この実施例の外観を説明するための図である。
【図3】この実施例の表示画面内容を表した図である。
【図4】この実施例の表示画面内容を表した図である。
【図5】この実施例の表示画面内容を表した図である。
【図6】この実施例の表示画面内容を表した図である。
【図7】この実施例の表示画面内容を表した図である。
【図8】この実施例の表示画面内容を表した図である。
【図9】この実施例の表示画面内容を表した図である。
【図10】この実施例の表示画面内容を表した図である。

【図11】この実施例の表示画面内容を表した図である。

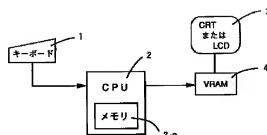
【図12】この実施例のフローチャートを表した図である。

【図13】この実施例のフローチャートを表した図である。

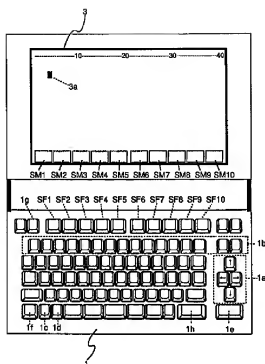
【符号の説明】

- (1) キーボード、
- (1a) カーソル移動キー、
- (1b) 文字キー、
- (1c) 機能実行用第1ソフトキー、
- (1d) 機能実行用第2ソフトキー、
- (1e) 実行キー、
- (1g) 表示切替キー、
- (3) 表示出力手段、
- (3a) カーソル、
- (3b) ガイダンスメッセージ表示画面、
- (3c) ヘルプメニュー画面。
- (SF1, SF2 SF10) ソフトキー(機能設定キー)、
- (SM1, SM2 SM10) ソフトメニュー部(機能名表示部)。

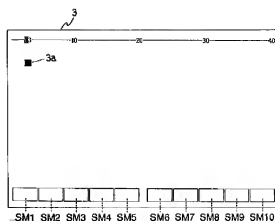
【図1】



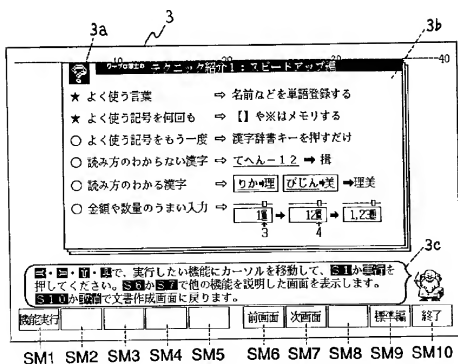
【図2】



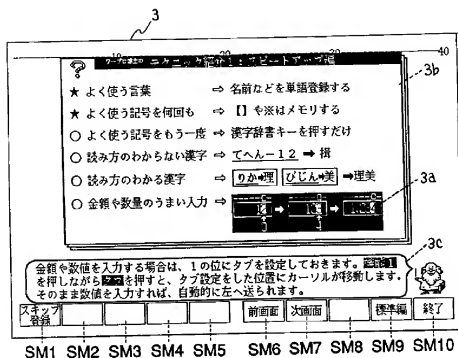
【図3】



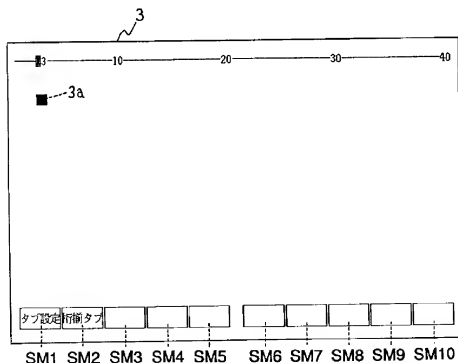
【図4】



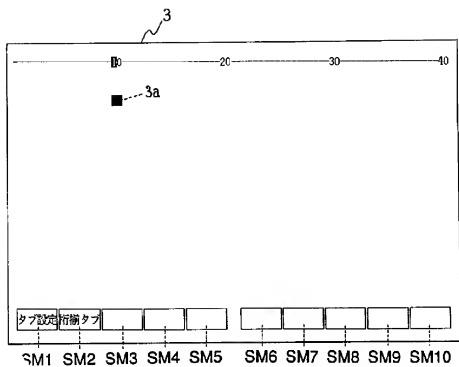
【図5】



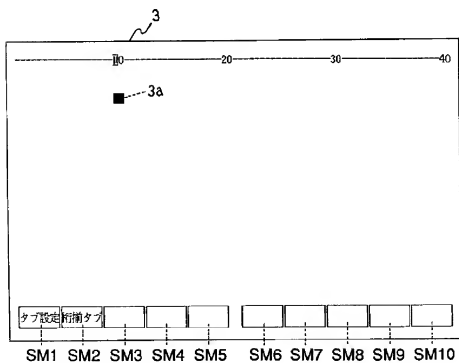
【図6】



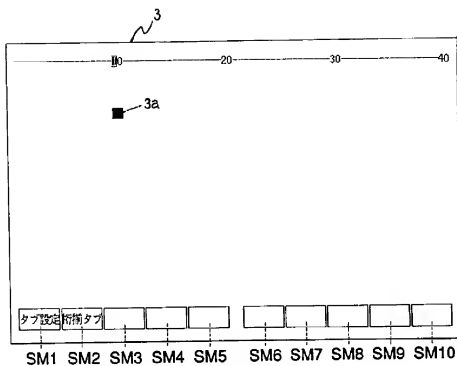
【図7】



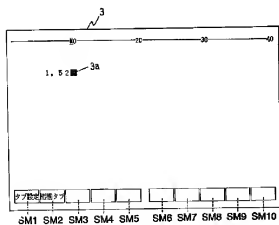
【図8】



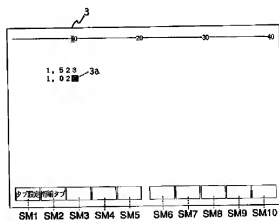
【図9】



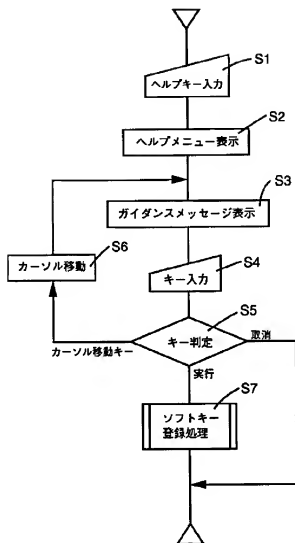
【図10】



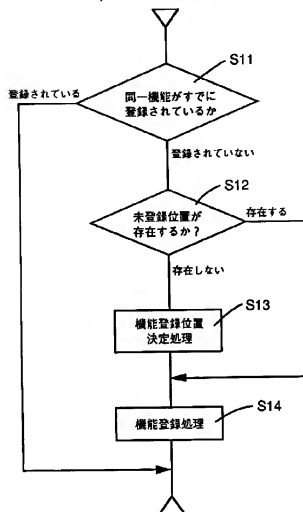
【図11】



【図12】



【図13】

ステップ7 (S7) のフロー
(ソフトキー登録処理)

フロントページの続き

(72)発明者 野中 裕一郎
大阪府守口市京阪本通2丁目18番地 三洋
電機株式会社内

(72)発明者 田中 努
大阪府守口市京阪本通2丁目18番地 三洋
電機株式会社内